

Historians コメント集成 PART 2

番号	書名	読んだ人数	の総数	の平均
11	王を殺した豚王が愛した象	12	53	4.4166667
12	縞模様の歴史	13	44	3.3846154
13	中世ヨーロッパの城の生活	12	34	2.8333333
14	中世ヨーロッパの都市の生活	16	50	3.125
15	ハーメルンの笛吹き男	11	33	3
16	数量化革命	18	74	4.1111111
17	「世界地図」の誕生	13	41	3.1538462
18	1491 先コロンブス期アメリカ大陸をめぐる新発見	4	15	3.75
19	マヤ文字	20	54	2.7
20	インカに眠る氷の少女	11	33	3

王を殺した豚王が愛した象

著者名	ミシェル・パス トゥロー	発行年	2003年
出版社名	筑摩書房	ページ数	266ページ
値段	2,400円	ISDN	978-4480857743

たとえば蜜蜂はナポレオンが選んだフランスの象徴。なぜなら……動物ごとに織り込まれた歴史の記憶を読み解く。で、一番人気はやっぱ象！

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
akkie	全部	読んでいてとても楽しかったです。初めて宇宙を飛んだライカ犬について、名前はよく知っていましたがそれが犬種名でなかったことや宇宙へ飛び出してその後どうなったのか、など初めて知って驚きました。
2008/02/20 08:28:40	266P (180分)	
プーさん	38-44,67-70,104-109,233-238,244-252	短編集のようになっていたので、面白そうなところだけかいつまんで読むことができた。トロイの木馬ってそんな話だったのか、と

2008/02/20 08:24:33	32P (40分)	いった具合に動物に関する伝説を知れてよかった。
	38-44	
勉強だいすき	3-8,15-44,104-109,127-135,233-263	一つ一つの章が短いため読みやすい。また、伝奇などを全く知らない人でも内容が頭に入りやすく、教養を身につけるための入門書としては十分活躍できる。 豚によって落馬した王子はあまりにもダサすぎる。ただし、猪による死は名誉ある死だと考えられていたのは納得がいかない。
2008/02/15 12:03:30	82P (50分)	
	104-109	この本の良いところはなんといっても、一つ一つの章が短く、非常に読みやすいところ。好奇心をくすぐられる話が次から次へと出てくるためどんどん先に進める。濫読にも向いています。
テニスする人	9-269ページ	
2008/02/11 23:42:36	260P (260分)	現在の蛇とネッシーの話をお勧めにしましたが、好みは人によって違いでしょうから、タイトルだけ見て拾い読みするのも良いのかもしれないですね。
	9 - 14、 244 - 252ページ	
ハイパー・ワイハー	38-44	とりあえず、これ書くために「トロイ（トロイア）の木馬」だけ読みました。ですが、神話の話からクローン羊ドリーまで、内容盛りだくさん！！
2008/02/04 17:46:25	7P (10分)	
	38-44	みなさんすいません。全部読んでみたいので、まだ借りさせてください。なるはやで返します。
ひいら	1-109、 191-279	カタイ本かと思わせてこの内容。 ドナルドやらネッシーやら、最後の話はクローン羊ドリー。
2008/02/04 06:17:09	198P (120分)	
	233-238	人間が、動物との深いかわりあいを持ちながら、いかに長い時間を過ごしてきたかがわかる本。
弟子	15-21 224-232 253-256 264-269	曰くつきの歴史。曰くつきの動物達。動物史とでも言いましょうか。
2008/01/28 01:55:38	36P (30分)	
	224-232	ストライクゾーンの広さは折り紙つき。とりあえず誰でもどこかにははまるはず。個人的にはかわいいかわいいテディベアちゃんのお話が人間臭くて面白かったです。
すらいむ	51-56	オーストラリアでは日本をなめてるとしか思えないような反捕鯨運動が繰り広げられていますが、旧約聖書をひもとくと鯨が悪魔とされていたりします。さらに、12-13世紀には修道院で淫欲の誘惑と戦うために鯨が食べられていたりして…。人のこと言えませんが、もう少しきちんと歴史を学んで欲しいなあと思わされた章でした。
2008/01/18 12:23:14	6P (3分)	
	51-56	「原罪の蛇」--聖書のことだけを書いていると思ったら、文化までも触れていた。
Nothing to lose	Lab.	
2008/01/09 20:53:48	261P (600分)	「クローン羊ドリー」--クローンしたのは何故羊？私の考えでは、西洋に最も重要な文化の一環「聖書」には、多くの牧羊人が人の命を救えた事などを書き、羊はクローンしたら、我々人間は牧羊人の位置付け事が出来る。。。。 著者によると、「一般に信じられているのとは異なり、最古の家畜は犬でなく羊であった」、また「羊は地球上最も広く生息する家畜哺乳類でにある」。

	12-13, 264-269, 253-255	「最初の宇宙飛行犬ライカ」--ライカは歴史上最も有名な犬だと思う。しかし、最新の解密文献によると、ロケット打ち上げた時、ライカの脈は普段の数倍まで上がり、数時間後になくなった。。。
紺	pp. 3-117, 143-151, 168-172, 253-255, 265-269	人類が長い歴史の中で関わってきた有名無名の動物たちについて、中世史に詳しい著者が短編を書くように紹介していく本。単にエピソードを羅列するだけではなく、著者の考察も加わり、子どもの頃に夢中で読んだ神話や聖書の新たな一面が見られて面白かった。
2007/11/28 17:43:22	137P (150分)	どの章も良かったけれど、個人的に一番興味深かったのはいつの間にか聖アントニウスのお供になった豚で、一番気に入ったのは人間の服を着せられて処刑されたファレーズの雌豚。
	どの章でも	高校時代にこの本に出会っていれば、もう少し世界史にも興味を持てたかもな、と思わされた一冊。
黒猫	9-269	面白いトコロだけ読もうと思って、とりあえず最初の章から読んでいったら、いつの間にか全章読破してました！(´Д`ノ)ノ
2007/11/15 15:37:16	261P (140分)	とにかく面白かった。(*'-'*)
	3-14,28-37,110-117,233-238	フェンリルさんも書いてる通り、キリスト教の原罪、ギリシャ神話、中世の王侯貴族や庶民の動物に対する考え、UMAやミッキーマウスなどアニメキャラクター．．．最後にはクローン羊のドリーまで、とても幅広いジャンルで書かれています。
フェンリル	1-127,168-264	どんな人でも1つは気に入る章が見つかるはず。(*´艸`)
2007/11/12 03:50:12	224P (180分)	原罪の蛇、ギリシャ神話ときて、ミッキーマウスまで行ってしまうヒット範囲の広すぎる本。しかし、あまりにも広すぎるストライクゾーンは、すべての章を気に入る人が、なかなかいない本でもある。そんなわけで今回は三つに近い四つ星です。
	9-38,224-264	本当に、自分の好きな動物、ミッキーとDonaldの熱きライバル争い、ネス湖のネッシーの謎、神話が大好きだという人は一読の価値あり。
		個人的にはフェンリルというネームなだけに狼に期待して、私が活躍したラグナロクが出ないかとワクワクしましたが、結果は出ずと、少し残念でした。
		一番楽しめるのはなんといってもネス湖のネッシー。このお話だけは、誰でも楽しめるでしょう。神話や歴史は元から知っている人の方が楽しめるかも。
		名作だけど、なかなか惜しい作品でした。



はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読（らんどく）」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰？

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

縞模様の歴史

著者名	ミシェル・パス トゥロー	発行年	1993年
出版社名	白水社	ページ数	141ページ
値段	900円	ISDN	978-4560073742

シマシマは悪魔のしるし。だから囚人服はシマシマ。でも、シマシマは衛生のしるしにもなった。だからパジャマやシーツはシマシマ。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
こわい	13-18	さわりの部分だけ読んでみました。
2008/02/20 09:27:59	6P (5分)	カルメル修道会の信仰に対する思い、の部分だけではなく他のエピソードも機会を見つけて読んでみたいです。
	13-18	
F A T B O Y	1-92	縞模様が社会秩序の外部におかれた者への差別化で用いられてたというのは少し衝撃でした。現代では流行になったりしているのに。。。つい縞模様の服をいくつ持っているかを考えてしまいました。
2008/02/20 07:49:39	92P (60分)	
	19-30、76-84	

くら	7-12、85-123	薄い本なので詳細な検討がなされているわけではありませんが、文章のスピード感が内容と相まって読みやすさを与えてくれていて、かつ面白かったです。
2008/02/19 15:27:33	43P (60分)	服、スポーツ用品、歯磨き粉、交通標記、ショーウィンドウなど、縞模様って僕らは普通に使っているのだけれど、実は縞模様を使うことを選択するときに、僕らはある前提を無条件に受け入れていて、その前提というのは縞模様そのものがもつ性格、特徴なのだということがすごくよくわかります。
		その他、僕が紹介しておきたいのは書かれている文章です。「ああ、いい文章」と思うところが幾つかあって、僕はコピーを取っておきました。
弟子	全部	例えば色というのは非常に流行に左右される記号である。「エカルラート」という色の名は今では緋色を意味するそうだが、その昔は純粋な青を意味したそうである。模様というのは色と色の境界線で出来ている以上、色同様に歴史の流行によってその意味を左右される。この本で紹介されている縞模様も例外に漏れず、時には悪を意味し、時には無垢を意味する。
2008/02/18 19:35:08	141P (60分)	縞模様というのは非常に考えさせられる模様だ。例えば水玉模様は背景の色の上に水玉の色が重なっていると考えられるが、縞模様の場合そうはいかない。色Aの上に色Bのストライプが重なっているのか、それとも色Bの上に色Aのストライプが重なっているのか。だが、たいていの場合はそれら二つの選択肢を無視して「両方の色がストライプ状になっている」と考えてしまう。そういう意味で縞模様というのは層を感じさせない、遠近感に乏しい色だということが出来るだろう。
	92,102	何を書いているのかわからなくなってしまった。要は縞模様ってすごいな、ってことで。
テレスコープ	86-93	縞模様に対して、あまり深く考えたことがなかった。ただ、徐々に縞模様を着なくなってきたな...というくらい。
2008/02/17 13:39:25	8P (20分)	いろいろな本を（ほんの少しずつ）読んできてですが、何に対しても深い意味があるのですね。
フェンリル	86-110	男がしましまパンツをはいて何が悪い！
2008/02/14 08:35:26	25P (20分)	まゝ私は反対ですけどね。
	92	確かなにぜに男はだめなのに女性だとオーケーなのだろうか？
		ファッションって不思議だなと言うのを感じさせるまもなくどんどん論じてくる勢いある本です。
テニスする人	86 - 92ページ	おもしろい
2008/02/12 22:29:37	6P (10分)	
	86 - 92ページ	縞模様にこんな深い意味があったとは・・・
高枝切りばさみ	7-13ページ	びっくりデス。
2008/02/06 09:51:44	6P (10分)	
	とくになし	縞模様と文化や歴史との関係とはなかなか興味深い題材だと思う。
87	1-48、76-84	それほど読むのに時間がかかりそうな本でもないのに、いつか時間があったら読んでみたい。
2008/01/21 16:02:47	48P (50分)	
	76-84	
トーマス	7-84,	
2008/01/10 19:31:29	78P (90分)	現代において縞模様というのはただの模様に過ぎないが、過去の歴史をのぞいてみると凄惨な歴史が垣間見える。フランス革命において縞模様が大量使用されたという事実には強い衝撃を受けたが、ここまでくると縞模様というものが人間心理の深い部分と繋がっている気がしてならない。
	13-48	
ハイパー・ワイハー	7-147	縞を意味する"stripe"は、裸にする・奪うの"strip"と抹消するの"strike off"と関連付けられるという記述が、衝撃的だった。
2007/12/17 15:36:51	140P (150分)	また、ア○アフレッシュに代表されるストライプの歯磨き粉は、マーケティングの観点からは正しいらしい。遊び感覚で歯磨きをする結果、消費量も多くなり、事実発売当初は1位を独占していたみたいだ。
	82-83	
ぺんね	7-84ページ,101-124ページ	縞模様は現代の街中にも溢れている。横断歩道や囚人服、シマウマなどその種類は様々であるが、そのどれもが縞模様になった理由を有している。中世から現代に至るまで縞模様が意味するものは変革していく。本において、邪悪な時代が長く語られていることもあ
2007/11/20 00:57:49	100P (70分)	

	67-70ページ	り、その意味が変革していき革命的なものになっていく様はなんだか痛快だった。
紺	pp. 7-50, 63-123, 143-147	縞模様の歴史について、その意味の変遷を追いつつ述べた本。ページ数が少なく、著者がフランス人ということもあってなかなか入り込めなかった。
2007/11/02 18:50:50	110P (250分)	だが、著者の専門である紋章学の分野では、架空の人物に与えた「想像上の紋章のおかげで、紋章の象徴的レベルを研究する」ことが
	46-48ページ	可能になった、という一節は興味深かった。 史実に基づいた文書でなくとも歴史学の材料になりうるのだ。

[TOPへ](#)

中世ヨーロッパの城の生活

著者名	ジョセフ・ギース フランシス・ギース	発行年	2005年
出版社名	講談社学術文庫	ページ数	286ページ
値段	1,000円	ISDN	978-4061597761

チェプストー城、ウェールズ。1日だけ滞在してみませんか。楽士の奏でるハーブとともにシカ肉料理を召し上がったあとは頭巾鬼で遊んで。明日は鷹狩りへ。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
こわい	1-291	前半の、城の変遷についての内容は人名が錯綜する感じになっているので雰囲気だけ読み、後半の、生活スタイルの書かれた各章を重点的に読むほうが楽しめるといえば楽しめる。でも、前半部が後半の前提となっているので全部読むのが一番よさそうだった。
2008/02/20 08:31:23	291P (200分)	
		ところで、本書の冒頭ではイギリス本島だけで1500の城があっ

	162-282	たとあり、一方最近の新聞で、東海地方のどこかの県には700位の城跡があるという話を読んでいたので、城の材料や、城をとりまく支配体制の様相などを比較してみるのも面白いかなあと、ふと思いました。
F A T B O Y	95-123、144-161	お城の中の生活が詳しく書かれています。 正直、都市の生活のほうが面白かったです。
2008/02/20 08:14:44	47P (30分)	「城の一日」は最近見た映画「マリーアントワネット」を思い出してしまいました。召使も嫌だけど、、、王様も微妙だなあ。。。
	144-161	
キングジョー	95 - 143	お城、つまんねー！！
2008/02/19 23:05:50	47P (40分)	まったく面白みがわからず逆にいつ面白くなるかと読み続けたのがまちがいでした。
	なし	かなりの斜め読みしましたー
大仏君	144 - 161ページ	殿様が寝る為だけに靴を脱がせたり、枕を置いたり、カーテンを引いたり、ネコを追い出したり、いろいろしなければいけない様子がよくわかった。 内容的にはお城の生活を淡々と描いているだけでとくに面白いではない。 お城が好きだという人にはいいかも知れませんが、ノーマルな人にはお勧めできません。
2008/02/19 17:40:28	18P (15分)	
	161	
ひいら	1-15	...あまり引き込まれませんでした。残念。 お城って広い。
2008/02/19 17:07:44	15P (10分)	
	1-15	
紺	pp. 98-108, 113-123, 268-282	イギリスの、といってもウェールズのお城を取り上げた一冊。パリモードの歴史→死刑執行人サンソン→排出する都市パリ、と読み進めてフランスに飽き飽きしていたところにちょうど手に取ったので、古色蒼然とした城の写真を眺めているだけでも楽しかった。 中央に比べてあまり触れられない地方の生活を垣間見ることができて、物語の中にまぎれ込んだ気分になれる。 ちなみに立ち読み部分は、女子飲みに参加している気分。
2008/02/19 11:28:06	37P (60分)	
	pp. 114-115	
塩キャラメル	16-123, 144-190, 216-243	どの章から読んでも大丈夫な本。 どういう思想のもとで中世の、特にイングランドの人たちが具体的に毎日何をしていたのかが分かりやすく描かれています。 144-の食事の話がおいしそうで好きです。
2008/02/18 21:12:36	182P (120分)	
	144-	
大	1-123	絶対体験することができないお城の世界。 この本を読むと少しだけ、お城生活を体験した気分になれます。 そのくらい詳しく書かれているので、興味がある方はぜひ。
2008/02/17 20:49:05	123P (120分)	
announ	1-286	城好き、城マニアにはお勧め。 日本の城のつくりと比較するのも面白いかも。 城だけでなく、騎士道精神や英国の中世史に興味のある人にもお勧め。
2008/02/07 18:39:11	286P (300分)	
のだめ	11-15,75-123	中世の王様は装飾品だけでなく、住むところにもこだわりを持っていたようです。想像する様な華やかさでは無かったようです。
2007/12/21 17:07:18	54P (30分)	
	92-94	
凱	1-41,144-165	お城の中が分かります。 しかし、世界史に強くないと一章らへんの人物名の大洪水の部分はかなり苦勞するかも。
2007/12/20 07:56:36	63P (120分)	
	第6章	
黒猫	42-123、144-190	騎士っていえばジェントルマンなイメージがあったが、実は貴婦人達の地位は低かったようだ。(・Θ・) 変な誤解や差別もあったらしい。 性交で快感を得ると妊娠するっていうのも、何だかなあ。。。(^ ڎ ^)
2007/11/12 22:06:20	129P (70分)	
	112-123ページ	



中世ヨーロッパの都市の生活

著者名	ジョセフ・ギース フランシス・ギース	発行年	2006年
出版社名	講談社学術文庫	ページ数	315ページ
値段	1,100円	ISDN	978-4061597761

トロワ1250年、フランス。都市の原型に滞在してみませんか。チュニク姿の職人に白い被り物の主婦たち、向こうに大聖堂。

読者投稿欄

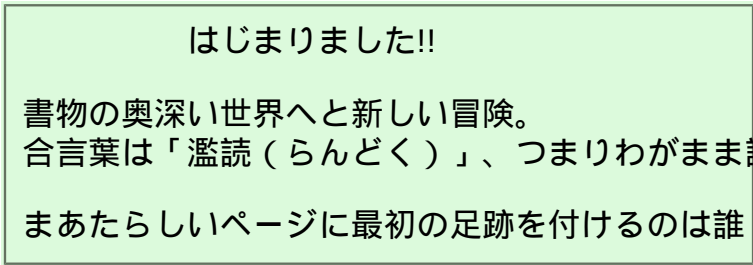
コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
キングジョー	1 - 87	まずは謝辞からってところにとりあえず印象的だった。 そのくらい・・・かな（笑）
2008/02/19 23:07:48	87P (60分)	
	9 - 10	
紺	pp. 173-180, 186-189, 233-249	『中世ヨーロッパの城の生活』の著者による、今度は都市の生活。前著に比べ各章が独立しているので読みやすい。第九章「教会」では、司祭の説教に思わずくすりとしてし

2008/02/19 21:51:09	29P (40分)	まった。 第十二章では、あまりなじみのないグーテンベルク以前の書物の姿が詳しく描かれている。 インターネットも選挙権もないけれど、この時代に生まれていたらそれはそれでよかったかもな、と思わされる一冊。
	pp. 176-178	
O'rei	70-113	項目別に分かれているので、つまみ読みがしやすいので内容も分かりやすいので、気楽に読める。 中世ヨーロッパの家庭に関するところを読んだが、女性もなかなかの権力を持っていたんだね。
2008/02/19 21:37:25	44P (40分)	
		これは城の話よりははるかに面白かった。落とし物を拾った人とそれを落とした人の話が面白かった。 また、教会が当時の都市の中で唯一の公共の場で、他人とつながれる重要な場所であることがわかった。大聖堂の作り方の細かさや力の入れようからもそのことが窺える。
大仏君	173-215ページ	
2008/02/19 18:25:13	43P (35分)	導入部分を濫読した。東京案内の方が親しみがある分読みやすかった。歴史を知る前に現代のヨーロッパについて知ることが興味につながるんだと実感させられた。
	176 - 178	
つちのこ	13-41	「とりあえずプロローグだけ」と思い読んでみましたが、そこで挫折しました。 プロローグがなかなか終わらない！ プロローグだけでひと歴史分終わってるじゃん！ プロローグなのにおなか一杯！ ほんとゴメンナサイ。
2008/02/19 00:48:20	28P (15分)	
		中世ヨーロッパの生活、すごく細かいところまで描かれています。 細かすぎるので少し生々しくも感じられますが、意外と入り込んでしまった1冊です。
弟子	9-41	
2008/02/18 19:53:41	33P (20分)	p84にあるような「良家の女性」、、、、現代の日本にはほとんどいませんね。
F A T B O Y	70-172、216-232	中世トロワの人々の生活が描かれている。女性、子供、職人、医師などの人からの視点と、教会、大聖堂などの建物からの視点、冠婚葬祭や市政からの視点など、様々な視点から描かれている。
2008/02/13 01:44:54	120P (130分)	
	70-88	「中世の大学はイタリアのボローニャ大学とフランスのパリ大学が有名でした」という世界史の授業を思い出しながら読んでいると、そのままの記述があってちょっとおかしかったです。 学校に通えるのはエリートだけだったんだ、とか 子供のころから本当に勉強漬けだったんだ、とか 今の私の怠惰な学生生活を諷められているような気になりました。
sya	P.1～P.69、P.173～P.215	
2008/02/12 15:51:53	112P (120分)	中世ヨーロッパに興味のある方はぜひともという本。 中世ヨーロッパの城の生活に続き読んでみたが、やはり城の方が・・・RPGのようなゲームが好きな人は、想像しやすいのかな？？
	P.46-P.47	
市戸瀬	216-231	最後のシャンパーニュ大市がよかったです。商人に対する税金と保護の関係にびっくりしました。GIVE & TAKEとはこのようなことなんですね。 1つ1つの章で話が分かれているので、好きなところをどうぞ。
2008/02/11 23:23:43	16P (20分)	
		1250年のフランス、トロワを例にヨーロッパの都市の生活を描いています。 項目別にひとびとの生活が具体的に（主婦、出産そして子供、結婚そして葬式、職人、医師、教会などそれぞれ具体的に）書かれていて、ヨーロッパ風ファンタジーの生活を展示しています。。都市生活の背後にある歴史の変遷などもわかりやすく書かれています
announ	42-50	
2008/02/07 19:29:35	8P (30分)	お勧めは p143-p157---豪商たち、 p158-p172---医師た
テニスする人	1 - 314ページ	
2008/02/07 16:21:08	314P (300分)	
	296 - 314ページ	
Nothing to lose	Lab.	
2008/01/22 12:02:11	309P (340分)	

	143-157, p158-172, 173-190	ち、 p173-p190---教会 です。
のだめ	55-113,158-172,216-232,268-279	学生生活は今では考えられません。現在以上に勉強漬け・・・でも、学者になるとして有望視されていました。下宿では屋根裏部屋を与えられていましたし。個人的には城の生活よりも面白いと思います。
2008/01/15 09:32:09	99P (90分)	
	61-64	
凱	1-41,70-102,114-134	当時の都市の人々の生活が生生しく描かれている。特に身だしなみについて述べている部分は、こんなところまで！！って思ってしまうのもあり、思わず噴出してしまいそうでした。 気軽にタイムスリップできる一冊。
2007/12/20 12:13:35	95P (150分)	
	84-87	
謎の男	42-215ページ	上の立ち読みポイントですが、「大聖堂」が好きな人には是非とも読んでもらいたい。 ヨーロッパに興味ある人にはおススメの本です。
2007/11/24 00:05:06	174P (80分)	
	158-215ページ	
すらいむ	1-256	物語で読んだ中世ヨーロッパの生活が具体的に描かれています。...が、少々文章が客観的にすぎるところがありますね。個人的には著者が突っ込みを入れたりしながら進めるような文章の方が好きなので 3つです。
2007/11/08 12:24:16	256P (3分)	
	p250-256	

[TOPへ](#)



著者名	阿部 謹也	発行年	1974年
出版社名	筑摩書房	ページ数	319ページ
値段	756円	ISDN	978-4480022721

1

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
くら	13-16、176-205、301-315	遍歴芸人たちは社会状況の移り変わりによってその地位を目まぐるしく変えられ、どのような形であれそれに対応することを求められた。その一連の流れが僕には想像もつかないエピソードを交えながら端的に描写されているといった印象を受けました。 個人的感想ですが、遍歴楽師たちの辿った1つの道の先が、近代音楽の先駆者へと接続したという経緯には驚きました。オーケストラの原点は確固たるものではなかったのですね
2008/02/19 15:33:43	45P (60分)	

市戸瀬	11-34	完全に数あわせだったので、最初のほうだけ読んでやめてしまいました。ドイツの地名がずらずら出てきたところ（p34）で読む気をなくしてしまって・・・
2008/02/17 14:36:54	24P (20分)	図書館で借りたのですが、返却期限までもう少しあるので、気が向いたらもうちょっと読んでみようかなあ
O'rei	13-118	伝説とその世界と言っているが、これは中世の歴史を探索する話で、基礎知識がないと正直読み進むのは辛い。伝説に対する解釈が多すぎて、話がぼやけすぎて散漫な感じがする。読み進めても興味が湧かなかった。
2008/02/10 19:03:03	105P (150分)	
ぺんね	209-303	何も知らない人にすら「ハーメルンの笛吹き男」は奇妙さを感じさせていると思う。そんな不思議な話である「ハーメルンの笛吹き男」に関しては解明されないで欲しいな、とも感じました。
2008/01/27 14:00:49	95P (45分)	
	216-218	
つちのこ	17～205	授業で扱った内容なので読みやすい。歴史学を分析していく様子が面白い。
2008/01/24 15:35:42	188P (120分)	
	37～42	
テレスコープ	121-205	「ハーメルンの笛吹き男」という話には、なにか奇妙なものを感じていた。解明できないからこそ伝説なのだと思うが、だからこそ伝説から何かを読み取ろうとしたくなる。答えがない謎解きは面白かった。
2008/01/19 17:46:37	84P (90分)	
大	17-134 300-319	「伝説が解明されることはないだろう」と最後に作者は言い切っちゃいましたが、与えられたものからいかに想像を膨らませて可能性を作って行くかという解明のプロセスに着目して読むと自分のためになるほんだと思います。
2007/12/13 05:06:06	138P (90分)	
	121-134	
凱	13-80,209-264,286-303ページ	ハーメルンの笛吹き男 1284年6月26日130人の子供たちがその男についていき行方不明。
2007/11/21 22:36:48	142P (200分)	何でこの事件を著者は追ったのか。 それは異常で、不思議で、それでも事実かもしれないから。 よ～～く考えて御覧なさい。 こんな出来事ほんとにあると思いますか？
	221-229	
謎の男	10-64ページ	「ハーメルン」という地名に惹かれたという理由でこの作品を読んだのだが、「伝説」の分析・解析という面では非常に面白かった。ドイツの歴史・文化を時代の変遷と共に考えている所が良かった。
2007/11/08 22:26:32	55P (60分)	
	45-55	
テニスする人	17-97ページ,286-300ページ	ハーメルンの笛吹き男という伝説を現存する資料から考察していくと、当時のハーメルンの現状などが見えてきて面白かった。今まではハーメルンの笛吹き男という言葉しか知らなかったが、この本を読んで少しはその奥深さに触れることができた。
2007/11/07 12:57:32	94P (120分)	
	17-27ページ	
紺	pp. 13-138, 209-315	ハーメルンの笛吹き男の伝説がどのような事件を基にしているか、資料に当たりながら、その歴史をたどっていった一冊。 ドイツの国家統一にこの伝説が利用されたという一節が興味深い。 また、無名の研究者にふれた第三章では学問に臨む姿のありように我が身を省みさせられた。 現在の研究もやがて新しい研究の礎となっていくことを実感させられる。
2007/11/02 18:46:26	233P (420分)	
	296-299ページ	

数量化革命

著者名	アルフレッド・W・クロスビー	発行年	2003年
出版社名	紀伊国屋書店	ページ数	352ページ
値段	3,360円	ISDN	978-4314009508

数を数えるって何？ アラビア数字、時計に地図、遠近法に楽譜.....いろんな近代的発明の根っこで起きた もののみかた 大転換をつかまえる。それはまさに 理系 なるものが誕生した瞬間なのだ。14世紀初めのヨーロッパ。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
うたたね	15-36,103-128,173-252	がっつり理系な本かと思いきや、哲学的な要素も含んでたりで面白かった。 各章の初めに掲載されている、偉人たちの数量化に対する態度を示す短い言葉に感動したり反発したりするだけでも面白いと思う。
2008/02/19 16:42:45	130P (80分)	
	15-36もしくは各章初めのページ	
ひいら	1-11	装丁の遊び紙が洒落てる。

2008/02/19 04:22:51	11P (10分)	時間、空間、数学、音楽、絵画...数量化の世界はどこまでも。
	1-11	
弟子	173-214	音符も何も無い時代には、音楽を語るには数学的な要素も熟知している必要があったとな。 音符を作るということは数学で言うところの関数と一緒に。xにどのような値がくればyにどのような声を出せばいいのかがわかる、一次関数のようなもの。そう考えれば世の中の多くのことは数学的といえなくも無いのかもしれない。 個人的には「ドレミファ」が作られた過程に感動した。
2008/02/18 20:40:09	42P (30分)	
	190	
O'rei	7-128、173-187、253-283	数量化。 そうそうすんなり行ったわけではないが、その道中を知ることができて面白かった。今では数量的見方は当たり前だけど、当時はそうでもなかったんだね。
2008/02/18 12:15:49	167P (120分)	
hiromitu	1-55	西洋の二元論的考えで、科学や芸術、音楽など、すべての物事を捉えようとするということは非常に面白い。
2008/02/16 11:52:06	55P (60分)	
黒猫	7-70	意外と読みやすかったし、面白かった。
2008/02/15 23:03:17	64P (60分)	数学って勉強だと嫌だけど、読み物としてはいいかも。
m	7-36, 126-127, 191-194, 287-291, 300-306	p.291 「現実世界を認知する枠組みをつくる、この枠組みによって現実世界を合理的に解釈し、人為的に操作することを可能にした」
2008/02/15 10:04:06	48P (30分)	特に「枠組みをつくる」ということ、そのことが与えた影響は計り知れない。ものを「単位」に分割することで初めて、数学的に記述することが可能になる。そしてそれは、人間に大きな進歩をもたらした――
	191-194, 126-127, 287-291	p191-194のドレミに関するエピソードと、p126-127の時間に関するエピソードがよかった。
ガリレイ	pp.15-36,pp.103-113	
2008/02/06 23:35:04	33P (40分)	これ以上読もうという気になれなかった。。。
	103p	
ぺんね	202-352	芸術や哲学、特に音楽を数字で考えるとは思わなかった。
2008/01/27 14:07:21	151P (80分)	考えようによっては世界は人間の尺度である数字によって全て表せてしまうのかと感じてしまう。
	246-251	
テニスする人	253 - 283ページ	簿記についてのところ読みました。
2008/01/24 10:41:30	30P (40分)	商人という仕事に「簿記」を導入したことによる革命がわかりやすく書いてあった。きちんと帳簿をつけることによって「バベルの塔にも比すべき混乱」から救った、とありなるほどと思った。
	253 - 283ページ	
フェンリル	37-70、185-251	数学に関する難しい話しに身構えていたら、そこは哲学や芸術の世界だった。 世界は数学によって成り立ち、音楽も絵画も数学とともに発展していった。ルネッサンス時代の画家や様々な時代の音楽家などが登場し、前提知識があればより楽しめる本である。
2008/01/24 02:40:38	99P (90分)	しかし、前提知識がない場合、たくさんの人名や作品に振り回され、この本の良さに気づかない可能性がある。
	215-251	丁寧な解説、数学を様々な視点で見ている独創性。 文句なしに名作！
pudeo	7-11ページ、15-70ページ、126-127ページ	時間の考え方の歴史、特に世俗的な時間に関する記述が興味深かったです。14世紀の料理の本を読むには、音楽の知識が必要だったとは。
2008/01/19 14:54:42	63P (50分)	

	126-127	断片的に読んだだけでも面白かったです。
きつとかつと	7-121	ヨーロッパ世界による帝国主義侵略がこれほどまでに成功したのはなぜか？生物学的・生態学的な理由も挙げられるが、やはり何よりもヨーロッパ世界が誰よりも先に科学的な知識と力を引き出す思考方法を手にしたからだ。しかしヨーロッパは有史以来常に先端をリードしていたのではない。9世紀にはヨーロッパは偏狭の土地であった。そんなヨーロッパがイスラム世界を追い抜き、16世紀には世界のトップにたってしまった。それを導いたものこそ数量化革命なのである。中世キリスト教史観から近代的世界観へ至る過程が時計や楽譜など具体的なものを通して記述され非常に面白い本だった。
2008/01/18 13:35:49	114P (90分)	
	7-36	
高枝切りばさみ	1-70	2章最後の数字にまつわる完全だとか神聖だとかのが面白くて、なかなか続きが気になるのですが、他に読みたい本が結構溜まっているので一旦ここで切り上げて別の本を読もうかな、と。暇があるなら続きを読みたいところです。
2007/12/14 19:45:50	70P (90分)	
	特に無し	
すらいむ	1-307	当たり前だと思っている数で表されている世界が実はほんの数百年の歴史でしかないということに驚き。「主体の楽観的な見通しを否定し、より現実に応じた推論をするよう促すのである」という一文に、数量化・視覚化の威力を感じずにはられない。
2007/12/07 12:51:08	307P (240分)	
	287-291	
市戸瀬	7-307ページ	世界の捉え方が定性的なものから定量的なものへ変わっていった中世の西ヨーロッパ。この世界観こそが「ヨーロッパ帝国主義が驚くべき成功をおさめた原因（本文まえがきより抜粋）」であると筆者は説く。私が面白いと思ったのは、「音楽」の章。音楽における視覚化（＝楽譜の発達）なしには、ブラームスの重厚な響きやラフマニノフの美しい旋律は生まれえなかったし、仮に生まれたとしてもすぐに忘れ去られてしまうのだろう。213ページの「目だけが理解できる音楽」の楽譜、249-250ページのピエロ・デラ・フランチェスカの絵画とその解説は一読の価値あり。
2007/11/15 01:41:00	301P (420分)	
	212-214ページ, 246-251ページ	
凱	全部	まず、帯に書いてある「神の尺度から 人間の尺度へ」という台詞がいい。もう、この一言でこれ一冊が包含されてしまっていると言っても過言ではない。今我々は、時間をいとも簡単に区切ってしまう。それは時計があるこの世の中が当たり前だと思っているからだ。12時を越えると午前は午後になり、その12時間後には日付が変わる。しかし、今一度考えてみれば初めて時間を区切った人間は、機械は一体社会にどのような影響を与えたのだろうか。
2007/11/13 21:32:50	352P (450分)	
	147-155ページ	
紺	pp. 7-70, 147-251, 285-307	ヨーロッパ人の覇権をもたらしたものは何だったか、それを彼らの学問の変化のうちに探し求める。特に第8章、記譜法が進化するにつれての音楽の変化は、文系科目の音楽文化論第二でふれた、技術がもたらす音楽の進化につながる内容で興味深かった。他にも数学、絵画や地図など、内容が多岐に渡っていてどの章から読んでも楽しめる一冊。階名はどうしてドレミ...と名付けられたのか、立ち読み箇所を知ることができるので、そこだけ
2007/11/02 18:56:00	192P (300分)	



はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰？

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

「世界地図」の誕生

著者名	応地利明	発行年	2007年
出版社名	日本経済新聞出版社	ページ数	257ページ
値段	2,400円	ISDN	978-4532165833

仏教は逆三角形、キリスト教はTO、中国は四角でイスラムは球.....地図の形の話です。中世の地図を4つ取り上げて、緻密に分析しつつそれぞれの世界観へアプローチ。ワールドワイドな視野の広がりとは分かりやすく誠実な語り口に引き込まれる。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
F A T B O Y	口絵ページ、1-39	時間があつたらもっと読んでみたいと思いました。 個人的にはブトレマイオス図、好きです。 地図がこれほど深いものだとは・・・。 地図の本なのに宗教だったり、エデン、バベ
2008/02/20 08:00:39	47P (45分)	
キングジョー	43 - 87	

2008/02/19 22:53:10	44P (60分)	ル・・・。 ヘルフォード図のところで頭が混乱してやめました (笑)
	83ページからの解説	
紺	口絵ページ、pp. 1-4, 154-161, 262-271	ブトレマイオス図、ヘレフォード図、フラ・マウロ 図・・・口絵ページを彩る様々な地図を見ているだけ でも楽しい一冊。 イスラム圏の歴史についてあまり読んでいない気がし たので、イドリースー図のところを重点的に読ん だ。キリスト教的価値観が地図の世界をも支配してい た同時期のヨーロッパに比べ、発想の柔軟さに驚かさ れる。
2008/02/19 22:05:53	30P (45分)	巻末の「地図における「傑作」をめぐって」は、ボ リュームの割に内容が薄かった気がする。題材として は興味深いので、もっと掘り下げたものを読みたかつ た。
	pp. 262-271	
大仏君	188 - 271ページ	地図の歴史を見るところからその当時の世界情勢がわ かるのが面白いと思った。
2008/02/19 18:41:07	94P (100分)	カンティーノ図が盗作されて、イタリアに渡り、豚肉 店の後ろ幕として使われていたのが発見されたりと、 紆余曲折のストーリーが面白かった。
	189 - 192ページ,214 - 219ページ	地図とかヨーロッパが好きでない人には面白くないか も知れないと思うので、お勧め度は3にとどめた。
謎の男	8-30ページ	
2008/02/18 00:44:05	23P (10分)	地図って・・・意外と面白いんですねー。 全部読めば良かったのかな。。
大	1-88	地図にはその当時の世界観や、宗教観など 様々なものが含まれていてとても面白い。
2008/02/17 19:48:45	88P (80分)	正確な地図だけが地図ではないと感じた。
テレスコープ	1-17	
2008/02/17 13:13:27	17P (30分)	全部読めば、もっと地図の見方が変わって面白くなる だろうな、と思った。
Nothing to lose	1-46	地図作るのは人類文明の一つだと思う。
2008/02/12 21:04:53	45P (90分)	世界を知りたくなる、そして世界を知る、これは人類 の歩いてきた道です。
	44-46	地図はもちろん、地図に入ってた文化や、世界観も面 白いです。
弟子	1-68	インドは広い！！
2008/01/28 02:08:35	68P (40分)	
	46-49	とりあえず読んだところではそんな感想。
ひいら	1-17、42-88	『地図に見る日本』に比べると、図表の少なさから読 みのテンポがどうしても遅くなる。解説の固さはもう 少しどうにかしてほしかった。仏教世界観の話は面白 かったから、もうすこし直感的理解につなげてほし かったです。
2008/01/24 02:35:23	64P (60分)	
	48-52	
トーマス	1-88	地図なんてただ図って描いて終わりだろと思っていた のに・・・宗教とのつながりが面白く書かれた一冊。特 に仏教パートの須弥山世界のイメージ図はよく練り込 まれている。
2007/12/23 12:17:06	88P (60分)	
	46-52	
テニスする人	189-271ページ	なぜカンティーノ図が傑作なのかがよくわかる。中世 の宗教的な世界観をあらわしたさまざまな地図との決 定的な違いが浮き彫りにされ、いかにカンティーノ図 が世界地図として優れたものかが、よくわかる一冊で ある。
2007/11/28 13:57:23	82P (60分)	前半部は授業でたくさん聞いたことのようなだったので 飛ばしました。
	193-202ページ	

市戸瀬	1-4,41-278ページ	大航海時代に誕生した地図史上の傑作「カンティーノ図」 現代に生きる私達が見れば単なる古ぼけた地図でしかないのだが、当時の地図の中では画期的な地図である。
2007/11/21 09:27:33	242P (280分)	地図の背後にある人類の世界認識の変遷を見ると、この地図の革新性がよくわかる。
	68-88,262-271ページ	単なる円盤だった昔の地図が徐々に改良を加えられて正確になって行く様を見るだけでも充分面白い。 立ち読みポイントの68-88は地図に込められた世界観が、262-271は地図における「傑作」を巡る議論が見物。

[TOPへ](#)

1491先コロンブス期アメリカ大陸をめぐる新発見

著者名	チャールズ C . マン	発行年	2007年
出版社名	N H K 出版	ページ数	610ページ
値段	3,200円	ISDN	978-4140812501

愕然の三部構成 常識を覆して超スリリング

愕然その1 コロンブス以前のアメリカ大陸には1億人もの人びとが暮らしていた 滅ぼしたのは病原菌

愕然その2 南北アメリカ大陸には2万年前から人が住み、ヨーロッパよりも早く文明が栄えていた

愕然その3 原住民たちは自らの手で積極的に環境を改変した アマゾンの密林も人の手でつくられたもの

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
こわい	1-621	1491年以前についての各研究者の梗概をうまくまとめた感じの本、という印象だった。この印象のようにあまり各内容を詳しく述べているわけではなく、例えば、先住民の伝承は本当だったのだ、と書かれている箇所がいくつかあったが、肝心の伝承の詳細が書かれておらず不満が残る。また600ページ以上の本としては図やグラフが少なく、特に古代の

2008/02/20 07:50:52	621P (600分)	文献から分かった経年的な事実の流れが視覚化されていない点が理解を鈍らせる。 しかし、ポケットモンスターや貿易の形態など、日本の事例を所々に見つけるのは面白い。筆者が様々な角度から、先コロンブス期のアメリカを眺めているかが分かる箇所でもある。 1～3に分かれた各部がそれぞれ単行本1冊の分量なので、1章毎をじっくり詠むか、思い切って全て詠みきるかのどちらかが良いと思った。
	243-306	
市戸瀬	65-240	歴史表現論のエントリーレポートのネタ本だったのでさくさく読めるかと思ったのですが、意外とてこずりました。 なぜか翻訳された文章は読みにくいと感じてしまいます。 コロンブス以前のアメリカにはどのような世界が広がっていたのか。私たちが考えるように、文明など何一つ無く、「高貴な野蛮人」しかいなかったのか。 このへんの新事実も面白かったのですが、やはり当事者であるアメリカやヨーロッパの科学者たちには、客観性を保つことがかなり困難なのだなあ、と思いました。この問題は、「政治的正しさ」との関係もあって、一筋縄ではいかないようです。 立ち読みポイントは、人口の推移を示したグラフ。 改めて、大量死の凄まじさを感じました。
2008/02/11 23:09:56	176P (200分)	
	p235	
pudeo	11-175	人口の90%以上が病原菌によって失われたと言われれば、にわかには信じにくいような気がします。しかし、チフス、インフルエンザ、ジフテリア、はしかと短い間隔で次々に上陸してきたと説明されれば納得できます。 先入観を捨てて、新しい知識を受け入れるのは時には非常に難しいかもしれません。この本で扱っているのはアメリカ史なので、私のようなアメリカに特に思い入れの無い人なら、結構すんなりと読めると思います。 余談ですが、時速160キロを越すって、一体アンデス式の投石器でどの位のスピードまで出せるのでしょうか？気になります。
2007/12/31 18:01:56	165P (150分)	
	152-156	
トーマス	19-238	歴史に対する思い込みとその修正。やはり人間というのは一度先入観を持つとそこから抜け出すのはなかなか難しいものだということがこの本を読むと改めてわかる。
2007/12/29 14:40:12	220P (240分)	
	65-118	



はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰？

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

マヤ文字

著者名	スティーヴン・ハ ウストン	発行年	1996年
出版社名	学藝書林	ページ数	116ページ
値段	1,553円	ISDN	978-4875170181

見ているだけで心浮き立つ丸っこくて愛敬のある絵文字。なのに、超ムズカシイ！
古代ギリシャの『線文字B』と比較しつつ読むと、アメリカ大陸の文明が旧大陸からいかに隔絶した価値観のもとにあるかが痛感できる。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
akkie	全部	この本は今までの解読の研究の概観として優れその意味では大変立派な本ですが、この本を読んでマヤ文字を勉強しようとする人にとっては不親切な本であるかもしれません。いくつかの解読の方法を示していますが、その説明は簡単すぎるところがあります。
2008/02/20 08:23:03	116P (150分)	
こわい	1-106	読みきるのは簡単だが内容を把握しきるのは難しい。『1491 先コロンブス期アメリカ大陸をめぐる新発見』を読んでおくと、内容の重複もあ

2008/02/20 08:11:45	106P (90分)	り、理解が深まるかも。暦の部分で、複数の周期の組み合わせで日付を特定するところなどもそうだった。
	56-102	言語学的な説明に免疫のない人は、文字とその意味が並列で書かれている77～81・92～101あたりをちらっと見るのが良いかもしれない。
F A T B O Y	32-105	文字というか、、、完全に「絵」な気がしました。
2008/02/20 01:44:21	74P (60分)	解読している学者もすごいけど、何よりも当時石碑にマヤ文字を彫った人がすごいです。
大	全部	同じシリーズの線文字Bのほうが読みやすい。
2008/02/17 18:14:30	116P (200分)	すべての言語、一文字一文字にここまで細かい意味が隠されているのかどうか非常に興味深い。マヤ文字は特別細かいような気もするが、、、
黒猫	写真のトコロ。	
2008/02/15 22:59:12	15P (40分)	意味はわからないけど、子供の落書きみたいで面白い。
きつとかつと	全体をばらばらと	
2008/02/15 18:34:36	20P (20分)	マヤ文字はまんま絵のようで面白い。
	39ページの碑文	ばらばらと見るだけでもいいのでは。
フェンリル	103-111	これほど、コメントしづらい本があるとは。
2008/02/14 07:35:12	9P (10分)	全体的にめくってみて、比較的読みやすいところを見たにもかかわらず、読みにくい。
	特になし	こればかりはあまりおすすめできないかも
テニスする人	1 - 31ページ	
2008/02/12 15:56:19	31P (20分)	たくさんの学者たちが文字解読に奮闘したことがわかる。
	1 - 31ページ	なかなか難しい感じだったので、じっくり読みたいひとはどうぞ。
高枝切りばさみ	第一章	
2008/02/06 10:03:53	20P (10分)	第一章だけを軽く読んでみたけども、意味のわからない文字を解読することというのがいかに大変かは少し伝わってきた。
	とくになし	
市戸瀬	全部	歴史表現論のエントリーレポートでお世話になった本。
		なのでさらっと読み流しました。
2008/02/02 18:22:50	116P (60分)	同じシリーズの「線文字B」はまだ「文字」の範疇にありますが、マヤ文字は「絵文字」というより「絵」にしか見えません。
		こんななんでもちゃんと解読できるのはすごいなあ、と思うのと同時に、どれくらいの時間を費やせば完全に解読できるんだろう、とも思いました。
	p102	立ち読みポイントは最後のほうにある文字と絵が一体となった「14号石碑」
チョコボール向井	1-63	
2008/01/24 22:49:09	63P (60分)	マヤ文字を解読することの意味が全くわからん。
	22	こんなことに時間をかける人の存在を認めたくないので読むのをすぐやめました。
87	1-31	
2008/01/21 15:44:36	31P (20分)	解読するのはすごいが、自分がやりたいとは思わなかった。
	22-24	
Who will I be?	1-35	
2008/01/09 14:32:48	35P (75分)	いまいち興味をそそられなかったので途中でやめてしまいました。
pudeo	全部	転写とか能格とか専門用語が結構出てきますが、簡単な説明がされていて読みやすいです。マヤ文字は、表音文字と表意文字が日本語みたいに混在していたり、又ユカテク語には声調があったりと少し親近感が持てるような気がします。歴史にIFはない、と言いますが、もし文明が滅ぼされていなかったとしたら、マヤ文字はどんな風に発展していたのでしょうか。各所に出てくるマヤ文字を見ているとそんな気にさせられます。
2007/12/30 21:56:11	116P (150分)	
	51-55ページ	
謎の男	p7-107	
2007/12/23 01:03:26	101P (90分)	この文字すげ。
	p55-60	でもわかりづらい。。。。。
		実は非常に細か～くできているらしい。

トーマス	12-102	この本の一番初めにある「マヤ文字は非常に物珍しく精巧である」というのが図を見ると本当によくわかる。しかも文法が結構適当らしい（まあ最低限のルールはあるようだが・・・）。こんなものを解読してしまう学者はやっぱり偉大である。
2007/12/15 09:23:10	91P (60分)	
	56-90	
紺	pp. 4-119	同シリーズの『線文字B』が比較的予備知識のある古代ギリシャ文化を背景にしていたのとは打って変わって、新大陸のなじみのないマヤ文字について、発見や解読の歴史、文法を中心に記した本。 『線文字B』が英語くらいの難しさだとすると、こちらはドイツ語くらいの難しさ。訳も不自然なので、わからないところは読み飛ばさざるをえない。 とはいえ、図版は見ていて楽しい（特にp. 102）。マヤ文明の基礎知識を得た上で図版を眺め、立ち読み箇所でマヤの暦の不思議さに触れるくらいがストレスのたまらない楽しみ方。
2007/12/06 12:08:21	116P (200分)	
	pp. 84-89	
ブーさん	全部	なんかよくわからなかった。 マヤ文字の歴史と特徴が多く書かれていたが、少し難しかった。 マヤ文字が読めるようになるわけではない。
2007/11/20 20:14:45	116P (180分)	
	56,84ページ	
凱	全部	なんとなく直訳調な感じで読みづらい。 とりあえず、マヤ文字はムズい！！ということが分かればいいのでは。 4章のタイトル「歴史を記す文字」というのがちょっと格好いい・・・。 ところどころに描かれているマヤ文字を眺めているだけでもいいかもしれません。
2007/11/13 21:22:47	116P (150分)	
	39,45,102ページ	
塩キャラメル	4-30・56-63	最初からマヤ文字の読み方を解説してくれるのかと思いましたが、はじめのほうは蒔蓄でした。 飛ばしても大丈夫だったかも。 後半から、読み方の解説があり、まあまあ分かりやすいし、マヤ文字が浅草の人形焼みたいでかわいいのですが語彙密度が高いためか、全体の印象として難しかったです。
2007/11/02 18:14:36	37P (60分)	
	56ページ	

インカに眠る氷の少女

著者名	ヨハン・ラインハルト	発行年	2007年
出版社名	二見書房	ページ数	318ページ
値段	2,200円	ISDN	978-4576070025

フワニータ。アンデスの雪の中から掘り出された少女は500年前のインカの生け贄。髪も表情も完全な彼女を生々しすぎると感じてしまうのは、歴史というものを過去の霧のかなたに、ぼんやり見たいと願っている私たちの身勝手のせいだろう。そんな甘さを覆される。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
O'rei	7-41	ミイラ発見の瞬間！ わくわくしました。
2008/02/19 22:20:30	35P (30分)	
ひいら	1-20	何よりも表紙と、それにつづく口絵のインパクト。 永久凍土の中から掘り出された女の子は、数百年のときを越えて今なお生き続けているように見える。

2008/02/19 16:37:43	20P (10分)	あるいは、掘り起こしてよかったのかな？とさえ思ってしまう。もしかしたらあと数百年数千年、ずっと眠り続けることができたのに。
	口絵	
弟子	1-41	プロローグの面白さで期待余剰となりすぎました。そのままのペースで本編読んだから途中からだれてしまいました。
2008/02/18 19:57:06	41P (20分)	ですがたしかにプロローグは読む価値ありだと思います。考古学としてではなくフィクションの物語としてだけでも。
	1-10	
大	1-126	
2008/02/17 21:04:08	126P (180分)	「5000年前の男」と同じように、写真がグロテスク。昔のミイラから様々なものがわかるというのは不思議です。
フェンリル	1-18	プロローグを読んだときは、この少女のどのような歴史が語られるのかと思ったら、それ以降はミイラです。そりゃもう少女の視点からなんてわからないかもしれないですよ。そもそも歴史すら怪しいインカ帝国のお話ですからね。でも、プロローグから期待させてくれた割のがっかりさが何とも言えません。
2008/02/14 08:13:45	18P (15分)	
	1-10	
テニスする人	7 - 10ページ	ミイラの写真がなかなかスゴイ！！
2008/02/12 22:01:33	4P (10分)	プロローグを読んでもみましたが、いけにえとなる少女の視点から描かれていて当時の状況が浮かんでくる。インカ文明の信仰の1つの形を見ることができる。
	7 - 10ページ	
紺	pp. 7-10, 60-78, 104-142	1995年、ペルーのアンパト山頂で「氷の少女」と呼ばれるミイラを発見した著者による、ミイラ発見をめぐるアンデス探検記。当時新聞に載ったミイラの写真にわくわくしたことを思い出しながら読んだ。内容はミイラの発掘とその後の研究の経過を事実に忠実に述べたもので
2008/02/07 08:57:03	62P (100分)	著者の持説の展開を期待していた分、肩すかしを食わされた気分になった。歴史というよりは考古学の本。ある程度インカ帝国に関する知識があれば、もっと面白く読めたかもしれない。
	巻頭ページ	考古学といえば歴史学の中でも華やかな分野に見えるが、そこでは学者たちの熾烈な勢力争いがあることを知ってミイラ発見に純粹にわくわくしていた子どもにはわからない、大人の世界を垣間見た気がした。
凱	-14-31,42-56	文章を読んでて思ったことは。筆者は皮肉屋さんなのかなってこと。（共感できるヒトがいれば嬉しい）
2007/12/20 08:12:44	61P (150分)	内容に関しては、なかなかあんこにたどり着かないあんまんのようで、なかなか氷の少女にたどり着かない。そんな印象でした。ただ表紙の写真がミイラだとは思えないことは誰もが納得してくれるかと。
	46-49	
トーマス	1-103	最初のカラー写真で少し引いてしまった（ミイラの姿がカラーでまるで生きてるみたいに・・・！！！！）が内容のほうは読みやすく面白い。アンパト山において氷づけの少女を発見したシーンでは発見したこと自体の興奮よりもむしろ氷の中から取り出す苦労が克明に描かれていてちょっとした臨場感を味わえた。
2007/12/15 09:35:05	103P (150分)	
	79-103	
黒猫	7-325	山に眠る遺跡を発掘している著者が、雪山で偶然発見したミイラ・・・それは500年以上も前に生け贄として葬られた少女だった・・・。
		本は発見されたミイラの写真から始まります。（*・ω・*）奇跡に近い完璧な状態で見つかったミイラ達・・・思わず鳥肌が立ちます。（´Д`ノ）ノ
2007/12/04 14:59:58	319P (170分)	だって、今にも動き出しそうなほど生っぽい。（°Д°;) それでいて、触れたら皮膚、骨、全てが崩れそうな脆さも感じて、余計怖いです。（ノД-。）

この本のいいトコロはただの発掘記で終わってないという点。（*°°*）b
ミイラを持ち帰った後に起こる学者や国の間の争い・・・単純に「ミイラ見つかって良かったね」って話じゃないんです。（`´´´）
沢山のヒトがミイラの展示を見に来たらしいけれど、こんなにも熾烈

	巻頭カラー写真	なミイラ奪い合戦が行われてたなんて、きっと知る由もなかったでしょうねー。(◦´ー`◦)
チョコボール向井	1-208	インカ帝国の習慣であった生贄の少女が当時に近い形で発見された時の状況が鮮明に書かれている。歴史を超えて少女が現代に発見されることがインカの人には想像できただろうか。当時の人々は神への生贄として少女を奉げたのに発見者は現代の技術を使って彼女を調べ上げたことに少女が眠っていた時間の長さを感じた。
2007/11/17 00:19:43	208P (180分)	
	11-41	

[TOPへ](#)